

講演会「掘り出された山田城」を開催

11月15日、沖縄国際大学名誉教授の上原静氏を講師に迎え、「国指定史跡 山田城跡～掘り出された山田城～」と題した講演会を開催しました。定員30名に対し、地域住民や関係者など34名が参加しました。

講演会では上原氏が昭和60年代に実際に山田城を発掘した自身の経験や豊富な資料と共に同時期のグスクや山田城を中心にわかりやすく解説していただきました。

国指定史跡 山田城跡とは

山田城跡は現山田集落の南東に位置する標高約90メートルの琉球石灰岩台地上に立地するグスク時代の遺跡です。

三山時代に中山勢力圏の北端に位置し、読谷山地域を治めていた按司の居城で、三山統一に重要な役割を担った護佐丸が生まれ育った居城でもあります。護佐丸は後に読谷村にある座喜味城跡を築城し拠点を移します。伝承によると、拠点を移す際、山田城跡の石積み壊して運び、再利用したといわれています。

1986(昭和61)年～1988(昭和63)年に恩納村教育委員会が発掘調査等を実施した結果、グスクは東西約30m、南北約160mの丘陵頂部に7か所の平場があり、グスクの周辺には野面積みの城壁を配していました。平場には複数の柱の穴が確認されたことから、建物が複数回建て替えられたことがわかっています。

山田城跡では多種多様な遺物が出土しています。出土資料は、日常生活のグスク土器や陶磁器の他に遊戯具や銭貨も多く出土しています。また、沖縄では採取できない九州長崎県産の滑石を加工してつくられた石鍋、武器武具(刀、甲冑)、鍛冶(韃の羽口)を示すものも出土していることから交易を中心に発展したことがうかがえます。

おわりに

参加者からは、「文化財が身近にあることを誇りに思う」「地域の魅力を再発見できた」など多くの感想が寄せられ、文化財への関心と理解が深まる有意義な機会となりました。



お問い合わせ: 恩納村博物館 ☎982-5112